

FFPEワークフローセミナー

FFPE標本を用いた病理学的解析法のワークフロー
～FFPE標本作成から遺伝子解析等への応用まで～

近年さまざまな分子生物学的解析法が確立し、疾患の解析が飛躍的に進展しています。一方で、すべての疾患は様々な分子生物学的背景によるミクロの異常が原因となります。

ミクロでの解析には病理学的手法が重要となります。病理学的アプローチにて気が付いた疑問点について、遺伝子工学を用いた新規遺伝子クローニング、培養細胞を用いた蛋白機能解析、遺伝子改変マウスなどの実験動物を用いた個体での解析などを用いて、分子生物学的研究に還元することも可能になります。

一般的な病理学的解析には、formalin-fixed paraffin-embedded (FFPE)標本用いた手法が用いられます。FFPE標本は臨床的にも、日々の病理診断やがん遺伝子検査に利用されています。

本セミナーでは、検体の採取から固定、パラフィン包埋法、薄切、染色に至るまでの一連の病理学的解析法について、基本から応用まで、実験のコツを交えてご説明いたします。

日時

2020年2月28日（金） 14:30-16:00

会場

鹿児島大学 遺伝子実験施設（1F セミナー室）

内容

- 検体の固定法
- FFPE標本作成の原理、方法
- HE染色、他の染色法について
- FFPEサンプルの遺伝子解析等へ応用 など

演者

PHC会社 エプレディア病理事業推進部
フィールドアプリケーションスペシャリスト
医学博士 阿部 晋也



ミクローム



自動包埋装置
エクセルシアAS

パラフィンブロック作製装置
ヒストスター